

ケアセンターけやき

小野澤 千夜子(ケアマネージャー/居宅介護支援事業所)

- 功 績** ケアマネージャーとして地域の医療関係者、サービス事業所、ご家族から信頼を得られるサービスの提供をした功績。
- 推 薦 者** 舟山 靖紀 (デイサービス主任)
- 推 薦 理 由** 平成30年5月に入職され、ケアマネージャーとして、常に利用者やご家族に寄り添いながら、日々、懸命に取り組まれています。今回は、ご利用者の気持ちに応えるために、地域の医療関係者や、サービス事業所を巻き込みながら、ご利用者の思いに応える対応が出来、結果、関わった関係者、ご家族が満足され、感謝の言葉を頂けた事は理事長賞に値するとして推薦をさせていただきます。

内 容

小野澤がケアマネージャーとして担当しているご利用者さんのKさんは、長年奥様の介護をされてきた医師(90代)で、奥様が病気で入所され、お一人の生活になりました。頑固気質のKさんは、お子様との関係も余り良くなく、人に頼ることを好まない性格でした。しかし奥様の介護から離れたのもつかの間、ご自身が病気になり体調を崩されました。

担当医からは年齢的にも積極的な手術は勧められませんでした。本人の強い希望により、胃がんの全摘手術をされました。その後療養病院に転院。在宅復帰を目指してリハビリをしていましたが、再度体調を崩すことになり、病院の職員からも在宅復帰は困難だと言われました。

そのような中、小野澤は病院に行き、自宅に帰りたいとリハビリを必死にされているKさんの思いを何とか叶えられないかと、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具などのサービス事業所や往診医、補助人に、Kさんの状況と本人の思いを伝え協力を依頼。その結果H30年10月末に、ご自宅に戻ることになりました。

当初、医師からは悪くすると3日から1週間と言われていた自宅での生活も、2ヶ月が経過。本人の体調を考えると年末年始は短期入院を勧めたいのだが、本人がお正月も自宅で過ごしたいという気持ちが強く、その気持ちをくみ、年末年始の緊急時に備えて医師や各サービス事業所にも緊急時対応をあらかじめ決めておき、自身も何かあれば駆けつけられる準備をして正月を迎える事になりました。

お正月は、本人の希望通りご自宅で迎えられ、翌日の2日夕方にベッド上で横になり、息を引き取られているのを訪問のヘルパーが発見し、その連絡を受け、小野澤は直ぐにKさん宅に駆けつけ、Dr、看護師、ヘルパーが集い迅速に対応。疎遠となっていたお子様とも連絡を取り報告。

関わった関係者は、本人の意思を最後まで尊重でき、ご自宅で最期を迎えさせてあげられた満足感、達成感を共有できて本当に良かったとの言葉をもらい、またご家族からも感謝の言葉を頂きました。